

## 『「社会の会費」税金の大切さ』

練馬区立開進第四中学校 二学年 小田切 明日美

最近、暑い日が連日続いている。「記録的な猛暑日」という言葉を今年何度聞いたことだろう。まさに、「異常気象」である。そしてこの暑さに、熱中症で倒れる人が増えていると感じる。街なかでも救急車を見る機会が多くなった。

そこで私はふと「救急車が出動するのにはどのくらいのお金がかかるのだろう。」と疑問に思った。調べてみると、一回の出動で約四万五千円もかかるというのだ。しかし、それは利用した人が支払うのではなく税金で賄われていることがわかった。日本では、国籍や人種、納税の有無にかかわらず、無料で救急車を利用できる。しかし、無料であるために救急車をタクシー代わりや、病院で待ちたくないから、といった理由で救急車を呼ぶ人が増えているのだ。緊急時ではないにもかかわらず救急車を呼ぶということはあるてはならないと感じる。そこには、私達の税金への意識の低さとも要因の一つに挙げられるのではないだろうか。

私達は口頭、買い物をして消費税を納めている。しかし、それをいちいち意識して買い物をする人はあまりいないのではないだろうか。おそらく、消費税十パーセントというのが当たり前になってしまったのだろう。今は税込価格で切りの良い値段にしているスマートフォンなどもあって、より税金を意識しづらいのかもしれない。しかし、社会の一員として私達の納めている税金が、どのくらい集められ、どのように使われているのか意識して生活していきたいと思う。

こうして考えてみると、身近なところで税金が活躍している、例えば、先ほど例に出したように救急車を出動させたり、学校で使う教科書を配ったり、道路整備なども税金で賄っている。このような公共サービスを提供するのに必要なお金をみんなが出し合っているのが、税金なのだ。言ってみれば、税金は「社会の会費」だ。一人のお金では実現できないことをみんなが少しずつ負担するのことで可能にしていく会費なのである。そして、それは私

達未成年者も消費税などを通して納めている。学校でも、全員が「生徒会費」であるのと同じように私達は立派な「社会の会員」なのである。

こうして、税金について詳しく考えてみて、税金の使われ方や、税金をなぜ国民が納めなければならぬのかなどを知ることができた。税金を納めなくなったら、今当り前に受けられている公共サービスもなくなる、街はどんどん荒れ果てていってしまうだろう。そのことについて、理解し意識することができれば、救急車を緊急時でないときに呼んだり、教科書を捨てたりすることはできないはずだ。私達は、「社会の会員」であり「会費」つまり、税金をしっかりと納める義務がある。そのことについて、今一度考えてみてはどうだろうか。